

# 一般社団法人日本地質学会2017年度総会議事録

## 一般社団法人日本地質学会 2017年度総会議事録

以下のとおり、2017年度定時社員総会を開催した。

日時 2017年5月20日（日）12：30～13：30  
会場 幕張メッセ国際会議場3F 302会議室

- 総会開催にあたり本日出席の代議員から、議長として道林克禎氏を、副議長として山口飛鳥氏を選出した。
- 議長は審議開始に際し、本日出席の代議員から書記として小松原純子氏ならびに細井 淳氏を、また、議事録署名人として同二人を指名した。

議長は、本日の出席者数を確認し、総会定足数である代議員の過半数56名をこえる出席者があるので成立している旨宣言し、議事に入った。

代議員（=社員）総数 111名  
議決権総数 111個

出席者数（委任状32、議決権行使者36含む）  
94名 この議決権総数 94個

出席役員 代表理事（会長）：渡部芳夫  
理事（副会長）：松田博貴 山本高司  
理事：天野一男 安藤寿男 緒方信一 笠岡友博 狩野彰宏 清川昌一 齋藤眞 坂口有人 澤口 隆 菖蒲幸男 杉田律子 竹下 徹 田村嘉之 内藤一樹 中澤 努 仲谷英夫 西 弘嗣 楡井久 平田大二 福富幹男 星 博幸 保柳康一 松田達生 向山 栄 矢島道子 山田泰広

監事：藤本光一郎 以上 理事29名、監事1名

### 第1号議案 2016年度事業報告・2016年度決算報告

1) 齋藤常務理事から資料にもとづき2016年度の事業報告があり、特に事業計画に照らし合わせ2016年度の実績の概要について、詳細な報告がなされた。

なお、2016年5月以降2017年4月末までに逝去された会員および今年度において逝去が判明した会員11名（うち名誉会員2名）に対し、黙祷を捧げた。

本議案については、特に質疑応答はなく、全会一致で本議案は承認された。

2) 会計担当の西理事から2016年度決算について報告があった。2016年度の決算は約104万円の赤字となったが、これは会計処理上、未払金（2016年度内に支払事由が発生したものを一括精算したためであり、未払金の精算を除くと単年度の収支バラ

スとしては問題がないとの説明がなされた。

その後、藤本監事より会計監査の実施報告があった。会計事務は適正に処理されているとの報告があった。なお、職員の退職引当金について、現時点では充足されているが、今後は勤務年数に応じた増額に対応しているかの確認が必要であるとの付帯意見の説明がなされた。

なお、会場より、決算報告にはもっと時間をとって説明するように考慮して欲しいとの意見があった。

本議案に対する議決権行使書のうち保留が2個あったが、議場出席者から特に質疑、意見は無く、賛成多数で本議案は承認された。

### 第2号議案 2017年度事業計画

渡部会長より、2016年度の本学会の事業成果を踏まえた2017年度の事業計画の基本方針が示された。

本議案について、議決権行使書のうち、反対1個、保留1個があったが、議決権行使書の反対については理由が不明であり、会場からは特に質疑はなかった。本議案は賛成多数で承認された。

### 第3号議案 2017年度予算案

西理事より資料に基づき、2017年度の予算案について説明がなされた。

本議案については、議決権行使書の反対1個、保留1個があったが、会場から誤字の指摘があったのみで、特に質疑、意見はなく、本議案は賛成多数で承認された。

### 第4号議案 選挙規則の改正

齋藤常務理事より、理事の欠員補充に関する選挙規則の改正の主旨および、それに伴う選挙規則の改正点について説明がなされた。

本議案について、議決権行使書の保留1個があったが、特に会場から質疑、意見はなく、本議案は賛成多数で承認された。

### 第5号議案 名誉会員の選出

山本副会長より、候補者3名について紹介があった。

本議案について特に質疑、意見はなく、本議案は全会一致で承認された。

審議を終了した後、渡部会長の挨拶と、125周年記念事業準備委員会の矢島委員長から記念事業への寄附協力のお願があった。以上をもって、議長は閉会を宣言した。

以上、決議を明確にするためこの議事録を作成し、議長、副議長および出席代議員、理事がこれに記名、押印する。

一般社団法人日本地質学会2017年度総会  
総会 議長 道林 克禎  
総会副議長 山口 飛鳥  
議事録署名人

代議員 小松原純子  
代議員 細井 淳  
代表理事 渡部 芳夫  
理事 齋藤 眞

## 理事の欠員補充に関する 選挙規則の改正

### 改正の主旨

現行、理事の辞任等による欠員の補充については、選挙規則第5条10項で補充のルールが定められている。欠員が出て補欠を充当する場合には、理事の改選時と同様に総会での選任が必要となる。定時総会にタイミングが合えばよいが、このためだけの臨時総会となると、事務手続きを含め負担が大きい。選挙規則第5条8項の規則を改正し、欠員の補充が容易となるよう備える。また、次点候補者の決定に不在が起きないように、特に支部関係の候補者は、複数の候補者が立つよう周知したい。

\*選挙規則改正：理事会で議決し、総会で報告し承認を求める。

### 選挙規則

#### <現行>

(役員選挙)

第5条 役員選挙は理事及び監事を選出するものとし、代議員による無記名投票により、理事は2年ごと、監事は4年ごとに全定数を改選する。

～ 省略

8 選挙管理委員会の報告を受けた総会において役員選挙結果は確定する。

～ 省略

10 理事が任期中に何らかの理由で欠員となった際には、地方支部区選出理事の補充に際しては次点者、全国区選出理事の補充に際しては付表所属別定員充足数を満たす次点得票者を繰り上げる。次点者が存在しない場合には欠員とする。

#### <改正>

8 選挙管理委員会は、当選者とともに順位を付けた補欠者を決定し、総会に報告する。

2017年5月20日

## 2016年度事業経過報告

### 1. 報告事項

#### 1) 会員の動静

2017年4月末現在の会員は、賛助会員27社、名誉会員56名、正会員3572名（うち院生割引118名、学部割引4名）、会員総数3655名、2016年4月末と比べて54名の減少であり、その内訳は次のとおりである。

入会者：134（賛助 0社、正会員 134名〔うち院生割引 81名、学部割引 14名〕）

退会者：113（賛助 0社、正会員 113名〔うち院生割引 7名、学部割引 0名〕）

除籍者：64（正会員64名〔うち院生割引 1名〕）

逝去者：11（名誉会員1名、正会員10名）  
名誉会員：倉沢 一（2016/11/13）正会員：梶間幹雄（2015/10/7）、山形理（2016/1/22）、加藤萬太郎（4/15）、小池美津子（4/28）、上砂正一（6/7）、鈴木一久（7/13）、堀井 篤（8/21）、鈴木和博（10/15）、宮崎 浩（2017/3/2）、中川 洋（逝去日不明）

#### 2) 学会運営に関する諸集会及び委員会等の活動

##### <2016年度定時総会>

日時：2016年5月21日 14：15～15：15

会場：北とびあ 第2研修室

議決権のある社員総数 121名（定足数：61名）、議決権の数 121個

出席社員数（委任状および議決権行使書提出者を含む）96名、

議決権の総数 96個、出席理事 32名、出席監事 2名

審議事項：1）2015年度事業報告・決算報告、2）代議員および理事選挙結果報告、3）2016年度事業計画、4）2016年度予算案、5）名誉会員の選出 いずれの議案も賛成多数で承認。

##### <委員会等の開催>

- ・執行理事会（10回）議事内容、報告等については、随時HP、ニュース誌に掲載
- ・理事会（4回）議事内容、報告等については、随時HP、ニュース誌に掲載
- ・その他委員会（メールによる会議を含め、随時開催）

#### 3) 学会の行事・事業

##### 1. 日本地質学会第123年学術大会

会期：2016年9月10日～12日

会場：日本大学文理学部

参加者：1,009名（会員821名、非会員188名）

・一般発表：560件（口頭319件、ポスター241件）

・シンポジウム：2件（口頭20講演）

・アウトリーチセッション：ポスター2件

・優秀ポスター賞の授与：13件

・巡検：実施7コース

・ランチョン：専門部会を中心に11件

・夜間小集会：13件

・若手会員のための業界研究サポート（9/11）：参加企業・団体：9社

##### <日本地質学会各賞の授与式・記念講演会>

日時：9月10日（土）、会場：百周年記念会館

・来賓挨拶 加藤直人氏（日本大学文理学部部長）

・日本地質学会榊山雅則賞受賞スピーチ：野田博之氏（京都大学防災研究所）「構造地質学における概念的断層モデルの数理モデルとしての具体化に向けて」

・日本地質学会国際賞受賞記念講演：Prof. Roberto Compagnoni氏（トリノ大学）

「Lithostatic pressure vs. tectonic overpressure: a geological conundrum?」

・日本地質学会賞受賞記念講演：荒井章司氏（金沢大学理工研究域）「マントル物質と地質学」

##### <年会関連行事>

・地質情報展2016とうきょうー首都を支える大地のしくみー 2016年9月10日～12日、参加者：1,000名

・市民講演会「ジオハザードと都市の地質学」9月11日、参加者：180名、講師：高橋正樹、千葉達郎

・地学教育委員会：小さなEarth Scientistのつどい～第14回小・中・高校生徒地学研究発表会：9月11日、参加校16校、25件、うち2件に優秀賞を、4件に奨励賞を授与。第15回理科教員対象巡検（地学教育・アウトリーチ巡検）：10月1日、「1コース：千葉市の昔の海岸線を歩く」案内者：米澤正弘、加藤 潔、参加者18名。

#### 2. 地質の日ほか、本部イベント

・街中ジオ散歩 in Tokyo「国会議事堂の石を見に行こう」徒歩見学会（日本応用地質学会との合同主催行事）：2016年5月14日、参加者50名、講師：乾 睦子、中澤 努

・第7回惑星地球フォトコンテスト表彰式：4月23日（土）、地質標本館、審査委員長：白尾元理

・惑星地球フォトコンテスト入賞作品巡回展示（2016年4月～2017年3月）：地質標本館4月19日（火）～5月22日（日）[第7回入選作品] / Gサミット2016（日比谷公園みどりのiプラザ）5月31日（火）～6月15日（水）[第7回最優秀作品] / 銀座プロムナードギャラリー 6月11日（土）～25日（土）[第7、8、9回入選作品] / NPC日本印刷（株）1階ギャラリースペース 8月2日（火）～12日（金）[第7回入選作品] / 第123年学術大会（地質情報展会場、日本大学文理学部）9月10日（土）～12日（月）[第7回入選作品] / あいちサイエンスフェスティバル 2016年9月17日（土）～11月6日（日）[第7回入選作品]

#### 3. 創立125周年記念事業

・記念ロゴマークのデザインの公募（2016年5月～7月締切。会員または会員の家族限定）、学会HP上での投票による一時選考、

選考委員会による二次選考を経てロゴデザイン（最優秀賞：千徳明日香会員、優秀賞：西田 梢会員）を決定。

・記念ロゴマークシールを作成。

・記念ポスターを作成。

・記念出版物の発行予定。

\*「社会と地質学（仮題）」、ベレ出版、2017年8月発行予定。

\*「県の石」、文一総合出版、2018年4月発行予定。

・創立125周年に向けてのアクションプラン、寄付のお願い、記念ロゴ完成のお知らせをNews誌（2017年1月号）、HPに掲載。

・125周年記念特集号の刊行スケジュールの整理・原稿受付（123巻4号～順次掲載）。

#### 4. 地質調査研修

研修地域：「千葉県君津市及びその周辺地域（房総半島中部域）」

秋季：11/14（月）～11/18（金）

参加者：6名

共催：産業技術総合研究所地質調査総合センター

講師：徳橋秀一、細井 淳（産業技術総合研究所）

\*本研修事業は学会事業全体の見直しのため、本年度をもって中止とした。

#### 5. 地質学者に答えてもらおう（2012年3月～運用開始）

運用開始からの質問件数の総数は123件（うち、2016年度中に届いた質問は28件）。これまでの質問の主なものとその答えは学会HPにて公開中。

#### 4) 出版物の刊行

##### <地質学雑誌>

・122巻4号（2016年4月）～123巻3号（2017年3月）を刊行した。総ページ数は719ページ。

##### <日本地質学会ニュース>

・19巻4号（2016年4月）～20巻3号（2017年3月）を発行した。総ページ数は372ページ。

##### <Island Arc>

・Island Arc 編集委員会の編集により、Wiley社よりVol.25, Issue 2～Issue 4, Vol.26, Issue 1を刊行した。総ページ数は427ページ。

\*2017年2月から編集事業をWiley社へ委託した。

##### <ジオルジュ>

・前期号（2016年5月）、後期号（同年11月）各20ページを発行。

##### <その他>

・「海洋底科学の基礎」（共立出版）2016年9月15日発行。

・「フィールドジオロジーシリーズ 電子書籍版」（共立出版）を発行。

#### 5) 関連外部委員会への協力

下記の関連外部委員会等に対して本学会から選出された委員を通じて、これまでに引き続きそれぞれの活動、関連学会の発展と連携

に協力した。

日本地球惑星科学連合：評議員（渡部芳夫）、連絡委員（緒方信一）、プログラム委員（沢田 健、小宮 剛）、ダイバーシティ推進委員会（宮下由香里）、環境・災害対応委員会-災害の委員（川畑大作）、環境・災害対応委員会-環境の委員（小荒井 衛）、ジャーナル企画経営委員（井龍康文）、ジャーナル編集委員（ウォリス サイモン）、自然史学会連合（斎木健一）、地質技術者教育委員（CPD：山本高司、JABEE運営委員：天野一男）、地質の日事業推進委員会（委員長：平田大二、副委員長：中澤 努）、アイトープ・放射線研究発表会運営委員会（運営委員、小宮 剛）、日本ジオパーク委員会（委員 平田大二）、(NPO) 地学オリンピック日本委員会広報小委員会（坂口有人）、放射性廃棄物の地層処分技術WG（委員、渡部芳夫）、地震火山サマースクール運営委員（柴田伊廣）、防災学術連携体連携委員（齋藤 眞、松田達生）、日本学術会議若手科学者ネットワーク（辻森 樹）など。

6) その他報告事項（主に他学協会との共催・後援、協賛行事など、開催時期に関わらず2016年度内において承認したもの）※そのほかはNews誌、HPに掲載の執行理事会議事録、理事会議事録参照。

＜他学協会の後援など＞

・神奈川県立生命の星地球博物館特別展「Minerals in the Earth-大地からの贈り物-」（7/16-11/6）の後援。  
・藤原ナチュラルヒストリー振興財団「神戸シンポジウム-ナチュラルヒストリー-これまでの貢献と今後への期待」（兵庫県けんみんホール、10/22）の後援。  
・㈱リバネス「サイエンスキャッスル実行委員会」「サイエンスキャッスル2016」（12/11-12/24の間、4ブロックで開催）の後援。  
・新潟大学旭町学術資料展示館企画展示「ジオパークの石ころ」（7/13-8/27）の後援。  
・蒲郡市生命の海科学館企画展示「第7回惑星地球フォトコンテスト入賞作品展」の共催。  
・こどものためのジオカーニバル企画委員会（代表者：廣木義久、第17回子供のためのジオカーニバル（11/5-6、大阪市）の後援。  
・日本地学オリンピック委員会より、平成28年度活動支援への協賛。  
・日刊工業新聞主催「2016土壌・地下水環境展」（10/19-21、土壌環境センター）の協賛。  
・第7回日本ジオパーク全国大会「日本ジオパーク伊豆半島大会」（10/10-12、静岡県総合コンベンション施設 プラサ ヴェルデほか）の後援。  
・ゼオライト学会「第32回ゼオライト研究発表会」（12/1-2）の協賛。  
・第14回高校生科学技術チャレンジ

(JSEC2016) の後援（作品募集期間：9/1-10/3）。

・経済調査会「地質調査要領説明会（全地連主催）」の後援。  
・日本アイトープ協会「第54回アイトープ・放射線研究発表会」（2017/7/5-7、東京大学弥生講堂）の共催（運営委員長：小宮 剛理事）。  
・地質汚染-医療地質-社会地質学会「第26回環境地質学シンポジウム」（11/25-26、日本大学文学部）の共催。  
・国際会議「第4回Slope Tectonics」（実行委員長：千木良雅弘、2017/10/14-18、京都大学）の後援。  
・鳥取砂丘再生会議「ふしぎ発見！鳥取砂丘」（2017/1/21）の後援。  
・地質標本館新春特別展「ふるさとの新たな主役の石」（2017/1/17-2/26）の後援。  
・科学教育研究協議会「第64回全国研究大会」（2017/8/7-9、広島市）の後援。  
・大阪市立自然史博物館特別展「石は地球のワンダー～鉱物と化石に魅せられた2人のコレクション～」および「47都道府県の石（岩石・鉱物・化石）」展（2017/4/22-6/4、同時開催）の後援。  
・三浦半島活断層調査会「城ヶ島観察会：深海から生まれた城ヶ島」（2017/5/21）の後援。  
・日本学術会議土木工学・建築学委員会インフラ健全化システム分科会主催、公開シンポジウム「地質地盤情報の共有化を目指して」（2017/4/27）の後援。  
・日本粘土学会「第61回粘土科学討論会」（2017/9/25-27、富山大学）の共催。  
・ジオ神奈川（代表：蟹江康光）、観察会「城ヶ島と三崎の地盤隆起-1923年大正関東地震の地殻変動」（2017/5/13）の後援。  
・朝永振一郎記念第12回「科学の芽」賞（作品募集期間：2017/8/20-9/30、筑波大学）の後援。  
・日本科学技術振興財団「青少年のための科学の祭典2017」（2017/6/10-2018/2/18、全国70会場）の後援。  
・日本地球化学会「第64回年会」（2017/9/13-15、東京工業大学・大岡山キャンパス）の共催。

＜他学協会などへ依頼＞

・第123年学術大会：東京・桜上水大会の巡検（プレ：9/9、ポスト：9/13-14（または15）、会期外：10/1）について、関連学協会15団体に協賛を得た。  
・「2016年秋季地質の調査研修」（11/14～11/18実施）について、産業技術総合研究所の共催を得た。  
・第8回惑星地球フォトコンテストについて、下記の後援および協賛を得た。（ ）は拠金額。  
後援：日本ジオパークネットワーク（3万円）、深田研ジオ鉄普及委員会（1万円）  
協賛：株式会社ウィンディーネットワーク

（5万円）

・第124年学術大会：愛媛大会のセッション共催：堆積地質部会に関わる4セッションについて、日本堆積学会、石油技術協会探鉱技術委員会と日本有機地球化学会の共催を得た。  
R9：堆積物（岩）の起源・組織・組成／  
R10：炭酸塩岩の起源と地球環境  
R11：堆積過程・堆積環境・堆積地質／  
R12：石油・石炭地質と有機地球化学  
・第3回西日本地質講習会（CPD講習会）（講演会：2017/5/17（水）、巡検：2017/5/18（木）、山口大学）：西日本支部が山口大学理学部地球圏システム科学科との共催を得た。

## 7) 支部の活動

＜北海道支部＞

### 1. 支部例会・例会

・例会（個人講演会および招待講演会、「県の石（北海道）」決定記念講演会）（6/11、北海道大学理学部）。個人講演10件、招待講演1件、参加者42名。招待講演：「これまでの制御震源探査データの再解析による日高衝突帯構造の新知見」講演者：岩崎貴哉氏（東京大学地震研究所・教授）。（例会後）「県の石（北海道）」決定記念講演会。講演者：新井田清信（北大総合博物館、ジオラボ「アポイ岳」所長）、中川充（産業技術総合研究所・北海道センター産学官連携推進室 総括主幹）。  
・総会（2017/3/11）於北海道大学理学部。参加者19名。

### 2. 「地質の日」記念展示

北海道のジオパーク-地球の営みを体感する-（4/26～6/5、札幌市資料館）。「地質の日」展示実行委員会主催。北海道大学総合博物館・日本地質学会北海道支部・産総研地質調査総合センター・道総研地質研究所・北海道博物館・札幌市博物館活動センター・小樽市総合博物館・北海道地質調査業協会との共催。北海道教育委員会・札幌市教育委員会の後援。洞爺湖有珠山ジオパーク・アポイ岳ジオパーク・白滝ジオパーク・三笠ジオパーク・とちか鹿追ジオパーク・十勝岳ジオパーク（美瑛・上富良野エリア）構想・カムイの大地ジオパーク構想・小樽軟石研究会・NPO法人自然教育促進会などの協力。資料館来場者：18,313名。

### 3. 北海道地質百選

・「北海道自然探検 ジオサイト107の旅」（北海道大学出版会）を出版。日本地質学会北海道支部監修。石井正之・鬼頭伸治・田近 淳・宮坂省吾 編著。  
・出版記念シンポジウム「北海道自然探検ジオ（大地）の魅力がいっぱい」（12/3、北海道大学理学部）。北海道大学出版会、北海道大学総合博物館、札幌市博物館活動センター、北海道地質調査業協会、日本応用地質学会北海道支部、地学団体研究会北海道支部の後援。参加者：シンポジウム40

名、祝賀会20名。

#### 4. 地質巡検

- ・春の日帰り巡検：裏山の地質災害（サッポロ巡検）～『豊平川の洪水痕跡と150年前の旧河道』（6/12、見学コース：南19条大橋下流、幌平橋、南大橋の上流、南7条大橋、豊平橋、埋立てられた豊平橋左岸、渡し守の住んだ自然堤防、大通東5～7丁目付近、大通東8丁目）。参加者15名。
- ・秋の巡検および講演会：三笠巡検～『三笠ジオパークと蝦夷層群の地質を学ぶ』（10/22～23、見学コース：桂沢ダム原石山、三笠市立博物館、野外博物館（三笠ジオパークジオサイト）、笠桂沢覆道、アンモナイトノジュール探索、芦別三段の滝、良野島ノ下採石場）。案内者：高嶋礼詩（東北大学学術資源研究公開センター東北大学総合学術博物館）、下村圭（三笠ジオパーク）。
- ・講演会『白亜紀研究と蝦夷層群－蝦夷層群の国際的重要性について－』（10/22）。講師：高嶋礼詩。参加者：1日目：11名、2日目：9名。

#### <東北支部>

1. 地質学会東北支部総会（8/27）於：弘前大学 実参加9名、委任状提出11名。総会議事、一般講演8件、懇親会10名（内非会員2名）参加。
2. 地質学会東北支部巡検「青森県深浦町方面」（8/28）、案内者：根本直樹（弘前大）、参加者3名。

#### <関東支部>

1. 地質技術伝承講演会（4/16（土）、北とびあ）  
「数値解析手法を用いた岩盤斜面の崩壊挙動評価」講師：萩原有夫氏（サンコーコンサルタント(株)調査技術部長）、関東地質調査業協会共催、参加者：63名。
2. 地質見学会  
第7回ミニ巡検「テフラ」（11/26（土）、神奈川県大井町）、案内者：笠間友博（関東支部幹事長、神奈川県博）、参加者13人。
3. フィールドキャンプ  
千葉県鴨川市清澄東大演習林（2016年8月29日～9月4日）京都大学学生巡検と同時開催、参加者6名。
4. 2016年地質学会学術大会関係  
準備：防災施設見学下見（5/19（木））、大会ポスター決定（6/20（月））など。  
実施（いずれも初めての試み）：
  - ・家族巡検（9/11（日））：「等々力渓谷の地層と東京の大地の生い立ち」、参加者6名。
  - ・サイエンスカフェ（9/11（日））：「海溝型巨大地震と津波の脅威－地質・歴史記録に学ぶ自然災害－」、参加者21名。
  - ・防災施設等見学（9/13（月））：「ゼロメートル地帯を守る：清澄水門管理事務所と扇橋閘門」、参加者5名。年会巡検の課題：巡検の参加者不足による

実施中止、レンタカー使用の問題点、巡検案内書原稿未提出。

#### 5. 支部活動

- ・支部総会（2017/4/15（土）、赤羽会館）：活動報告、会計報告、活動計画、予算案
- ・支部功労賞授与（3件）：栃木県立博物館、遠藤 毅氏、門田真人氏
- ・幹事会：10回開催（1回/月程度）

#### <中部支部>

1. 中部支部2016年支部年会（静岡2016）：（6/11（土）：総会・シンポジウム・一般発表、ふじのくに環境史ミュージアム、6/12（日）：地質巡検）。ふじのくに地球環境史ミュージアム、静岡大学地殻・マントル変動フォーラムとの共催。
2. 総会：参加者13名、委任状60名。2015年度の支部活動、2015年支部年会（富山）、県の石などの報告。
3. シンポジウム：「地質記録から探る静岡県の低頻度大規模自然災害」世話人：山田和芳准教授（ふじのくに地球環境史ミュージアム）、北村見寿教授（静岡大学）、参加者（一般市民を含む）111名。
4. 一般発表：自然災害に関する口頭発表5件、学生・院生を中心としたポスター発表5件。優秀なポスター発表に対して中部支部優秀学生ポスター賞を授与。
5. 懇親会：参加者20名。
6. 地質巡検：「安倍川源流部大谷崩」の見学。案内者：狩野謙一（静岡大学名誉教授）、参加者20名。

#### <近畿支部>

1. 2016年度支部体制  
2016年度支部総会（5/8（日）、自然史博物館会議室）、出席者数：41名（委任状含む）  
議題：支部活動報告・支部会計収支報告・2016年度事業計画・支部役員改選  
支部役員：支部長：三田村宗樹、幹事長：里口保文、幹事：大串健一・奥平敬元・此松昌彦・栗原行人・先山 徹・竹村厚司・田中里志・谷保孝（会計担当）・和田稜隆
2. 行事報告
  - ・第33回地球科学講演会「カンブリア大爆発のあとさき」（「地質の日」行事、5/8（日）、自然史博物館講堂）主催：地学団体研究会大阪支部・日本地質学会近畿支部・大阪市立自然史博物館。講師：江崎洋一（大阪市立大学大学院理学研究科地球学科教授）、参加者170名。
  - ・自然観察会「岸和田市南部の地質」（「地質の日」行事、5/29（日）、岸和田市河合町周辺）主催：大阪市立自然史博物館・きしわだ自然資料館・地学団体研究会大阪支部・日本地質学会近畿支部。講師：奥平敬元（大阪市立大学大学院理学研究科准教授）、参加者：34名
  - ・自然観察会「亀の瀬の地滑り」（11/3（木・祝）、大阪府柏原市）、主催：大阪市立自然史博物館・地学団体研究会大阪支部・日本

地質学会近畿支部、参加者：42名。

#### <四国支部>

1. 6回日本地質学会四国支部総会・講演会（12/3（土）、高知大学海洋コア総合研究センターセミナー室）、参加者：57名（うち学生28名）、個人講演：口頭発表11件、ポスター発表14件
2. 2016日本地質学会四国支部巡検一吉野川大歩危流域の三波川（四万十？）変成岩を訪ねて－（12/4（日））、案内者：石塚英男、参加者：9名。

#### <西日本支部>

1. 「地質の日」企画「身近に知る「くまもとの大地」」（阿蘇火山博物館、地質体験イベント5/7（日）、展示（5/1-5/15）を予定していたが、熊本地震のため中止）
2. 第2回西日本地質講習会（CPD講習会）、山口大学理学部地球圏システム科学科との共催、6/1（水）-6/2（木）、参加者：講習会：41名、巡検：21名（のべ62名）
3. 「地質の日」阿蘇特別イベント「身近に知る「くまもとの大地」」（「地質の日」企画の代替イベント、8/11（木・祝）、阿蘇草原保全活動センター、参加者：100名程度
4. 山口大学・サイエンスワールド（後援）、11/6（日）、山口大学吉田キャンパス、参加者（総来場者）：1,056名。
5. 講演会「ジオパークと防災減災－熊本地震から見えたこと－」（「地質の日」企画の代替イベント）、11/19（土）、くまもと県民交流館パレア、講師：尾池和夫氏（日本ジオパーク委員長）、参加者：約150名。
6. 西日本支部2016年度総会・第168回例会、2017/2/18（土）、宮崎大学教育学部（例会）口頭発表11件、ポスター発表10件。参加者：約40名。  
（総会）2016年度事業等活動総括・決算・監査報告、2017年度事業計画・予算・新役員について審議2017年度事業、地質の日のくまもと大会：2017年上旬?下旬の土日のいずれか1日（共催）、第3回西日本地質講習会：山口大学理学部地球圏システム科学科CPD講習会（共催）5月17日（水）講義、18日（木）巡検、山口大学・サイエンスワールド：2017年10月（後援）、2017年度総会・西日本支部第169回例会：2018年2月広島大学（主催）。懇親会：参加者：約20名。

#### 2. 執行理事会および理事会議決・承認事項

- 1) 会長（代表理事）、副会長の選出。  
会長：代表理事に渡部芳夫、副会長（2名）松田博貴（支部長連絡会担当）、山本高司（名誉会員推薦委員会担当）
- 2) 執行理事の選出、部会長（〇印）の選出。  
常務理事：斎藤 眞、副常務理事：安藤寿男  
運営財政部会：〇緒方信一（総務、会員）、西 弘嗣（財政）  
広報部会：〇坂口有人、小宮 剛（News誌、

企画出版兼務)、内藤一樹 (WEB)  
学術研究部会: ○岡田 誠 (行事委員会), 山田泰広 (専門部会連絡委員会)  
編集出版部会: ○中澤 努 (地質学雑誌), 田村芳彦 (IAR)  
社会貢献部会: ○平田大二 (連携事業), 杉田律子 (普及事業, 研修事業), 廣木義久 (教育), 辻森 樹 (県の石推進委員会)  
3) 理事会議長・副議長の選出。  
議長: 向山 栄, 副議長: 佐々木和彦  
4) 執行理事会の特任担当ならびに理事会の下の委員会の特任担当の確認。  
特任理事: 松田達生 (防災広報アウトリーチ), 井龍康文 (国際交流), 清川昌一 (広報フォトコンテスト実行委員会), 川辺文久 (文科省リエゾン) 矢島道子 (125周年記念事業), 天野一男 (ジオパーク支援委員会)  
5) 各賞選考委員会委員の選出。任期2年。  
\*理事の互選 (10名): 天野一男, 笠間友博, 亀尾浩司, 清川昌一, 澤口隆, 田村嘉之, 狩野彰宏, 竹下 徹, (委員長) 保柳康一, 星 博幸  
\*役職指定委員 (9名): (前・現地質学雑誌編集長・副編集長) 小嶋 智, 秋元和実, 山路 敦, 大藤 茂, 岩森 光, (前・現アイランドアーク編集長) 伊藤 慎, 海野進, 武藤鉄司, 田村芳彦  
6) 熊本地震災害への学会声明を承認。  
7) 第1回防災推進国民大会 (8/27 (土) ~ 28 (日), 東京大学本郷キャンパス) への出席を了承。担当は澤口 隆理事。  
8) 日本学術会議・防災学術連携体合同講演会「熊本地震・3ヶ月報告会」(7/16 (土), 日本学術会議) について, 地質学会からは大橋聖和会員 (山口大), 向吉秀樹会員 (鳥根大) が報告。  
9) 編集委員会の新体制発足: (委員長) 山路 敦, (副委員長) 岩森 光, 大藤 茂。  
10) 「県の石」の選定について, 5/10 (火) に文部科学省記者会で記者会見を行った。  
11) 県の石の応募採用者 (当選者約173名 [うち1件137, 2件29, 3件7]) へ粗品を送付。  
12) 学会賞及び小澤・欄山賞受賞者へのレビュー論文の執筆依頼について, 受賞者による総説執筆を復活させ, 2017年度からのルール化を目指す。  
13) 国際地学オリンピック (8/21 (日) ~ 27 (土)) の開会式に松田副会長が出席。  
14) 全地連発行「地質と調査」編集委員会より, 小特集「人材育成」についての執筆依頼があり, 坂口理事が寄稿。  
15) 地学オリンピック日本委員会より, 第9回オリンピック予選・本選の作問委員に委員1名を推薦。  
16) 産総研地質調査総合センターからの「地方におけるCPD 単位認定講演会等への講師派遣に関するご提案」を了承。行事の主体は学協会, 産総研は共催という形で講師の派遣や支援等を行う。  
17) JIS原案作成委員会の委員として宮下純夫元会長を推薦。

18) 東レ科学技術研究助成へ1件推薦。→採択 (菅沼悠介会員 (極地研究所))  
19) 「県の石」の広報・周知のお願いについて, 会長が直接出向いた。山口県 (8/1), 8/23鳥取県 (8/23), 宮城県 (9/21), 茨城県 (10/7)  
20) 謝金に関する細則の一部改正を承認。  
21) 各種委員会委員の変更, および既存委員会の確認。委員の交代と継続について承認。  
・理事会規則第14条1 項による委員会: 支部長連絡会, 地質災害委員会, 名誉会員推薦委員会, 男女共同参画委員会, ジオパーク支援委員会, 各賞選考委員会  
・理事会規則第14条2 項による委員会: 地学オリンピック支援委員会, 法務委員会  
22) 会員証の発行 (2017年11月配布) を承認。  
23) 学会HPに「県の石」英語版リスト (35th IGCで配布, 石渡明元会長作成) を掲載。  
24) 大学改革支援・学位授与機構よりの, 大学及び高等専門学校の機関別認証評価委員会専門委員候補者の推薦依頼について, 女性2名を含む3名を推薦。  
25) Orthorhombicの訳語について, 直方晶系 (斜方晶系) の使用を承認。  
26) 愛媛大会の8件の巡検 (案) を承認。  
27) 県の石出版企画案について, 出版社提案 (各県A5版見開き2p.) を確認。支援委員会として出版を進めることを承認。  
28) 学会HPの「県の石」サイトに, 鉱物科学会の「国の石」をリンクすることを了承。  
29) ジオルジュ 125周年記念特集号国際版の企画・発行を承認。  
30) 原子力学会誌「アトモス」編集委員会の要請により, 2017年4月号特別企画「福島原発事故に対する各学会の取り組み」について, 会長が寄稿した。  
31) 学術会議会員半数改選 (2017年10月) に向けて, 女性4名を含む6名を連携会員として推薦。  
32) 各賞選考委員会 (保柳委員長) は各賞選考検討委員会を設置し, 日本地質学会賞, 国際賞, 小澤儀明賞選考の諮問をした。  
・指定委員: 井龍康文, 渡部芳夫, 川幡穂高, 斎藤文紀, 脇田浩二, 荒井章司, 小嶋智, 山路 敦 (委員長) 伊藤 慎, 海野 進, 田村芳彦, 武藤鉄司  
・Island Arc賞については, Island Arc編集委員会に選考を諮問した (委員長: 海野進)。  
33) 地質学雑誌「編集投稿出版規則」の改正: (改正後の規則は学会HP, 地質学雑誌123巻1号巻末を参照)  
・郵送による投稿の受付取りやめ (電子投稿に限定)  
・引用文献リストの英語表記拡張  
34) IARの編集業務体制の変更を承認。  
・学会事務局で行っている業務を, Wiley社に委託する (2017年2月から)。  
・委託費用は年間投稿論文数100編まで80万円とする (現行Wiley社より支払われている

る編集費内で賄う)。  
35) 名誉会員推薦委員会委員の選出。委員長: 山本高司  
・階層別委員 (4名): 官公庁: 加藤碩一 (産総研), 小中高教員: 会田信行 (東海大学文学部), 会社: 足立勝治 (アジア航測), 大学: 木村 学 (東京海洋大学学術研究院)  
・職責委員 (各支部長7名): 竹下 徹, 柴正敏, 有馬 眞, 大藤 茂, 三田村宗樹, 石塚英男, 仲谷英夫  
・理事会推薦委員 (1名): 向山 栄理事  
36) 子ども向けデジタル教材制作を了承し, 子供ゆめ基金への申請を行った。これにより2017年度の助成が採択された (助成額: 1,000万円)。  
37) 2017年度からの地質調査研修事業を中止する。実施形態を改めて検討する。  
38) 山田科学財団の研究援助推薦について, 1件推薦を承認。  
39) 愛媛大会の運営をアカデミックブレインズに委託することとした。  
40) 9月の年会以降の専門部会長の交代を了承。  
(地域地質) 斎藤 眞, (層序) 岡田 誠, (堆積) 横川美和, (構造地質) 金川久一, (火山) 及川輝樹, (鉱物資源) 中村謙太郎  
41) 愛媛県市之川鉱山 (県の石: 輝安鉱) の巡検は, 鉱物科学会が実施し, 地質学会は後援することとした。  
42) 日本学術会議, 熊本県, 防災学術連携体主催「熊本地震一周年報告会」(2017/4/15, 熊本県庁) について, 地質学会からは大橋聖和会員 (山口大) がポスター展示で報告。  
43) 本年度試験結果を踏まえた大学入試センターへの意見書を2017/3/4付で提出。  
44) 地球惑星科学連合の「学協会長会議幹事会規則 (案)」について, 日本地質学会としての意見を提出。  
45) 第8回惑星地球フォトコンテストの審査結果 (応募総数650点): 最優秀賞1件, 優秀賞2件, ジオパーク賞1件, 日本地質学会賞1件, ジオ鉄賞1件, スマホ賞1件, 入選5件, 佳作10件を選出。表彰式は第4回理事会開催日 (2017/4/8 (土)) に行う。  
46) 地質技術者教育委員会より, 新委員として竹内真司会員が加わり, 2017年度から天野一男委員に代わってJABEEを担当。  
47) JST「科学技術コミュニケーション推進事業, 未来共創イノベーション支援活動」への申請について, 産総研から地質学会を共創機関としたいとの依頼を受け承認。  
48) RFG2018へのセッション提案について, 提案の呼びかけや情報提供, 学会HPへのリンクなど, 協力することで了承。  
49) 2016年度事業報告・決算案を承認した。【1号議案】  
50) 次の30名の会員を50年会員として顕彰することとした。  
赤羽久忠, 赤松 陽, 安間 莊, 伊東正喜, 伊奈治行, 大平芳久, 岡田昭明, 尾本幹夫, 加納 隆, 清樫保弘, 小坂共栄, 坂井陽一,

周藤賢治, 杉山了三, 常磐井守興, 中川雅之, 中川要之助, 中山俊雄, 長谷義隆, 平林康弘, 藤原八笛, 星沢 巡, 星野フサ, 牧野内 猛, 三木 孝, 武蔵野 實, 森下茂治, 八尾 昭, 八木下晃司, 渡辺秀男

51) 2017年度事業計画および2017年度予算案を承認した。【2号議案, 3号議案】

52) 選挙規則改正(理事の欠員補充に関する選挙規則の改正, 2015/9/10理事会決議済み)を確認し, 総会議案への提示を承認。【4号議案】

53) 名誉会員推薦委員会から候補者として提案された, 鈴木博之会員, 波田重照会員, 大場忠道会員を総会に推挙することとした。【5号議案】

54) 各賞選考委員会より提案された下記の各賞受賞者を承認した。(推薦文は本誌15p.参照)

・日本地質学会賞(1件)

ウォリス サイモン(名古屋大学大学院環境学研究科)

対象研究テーマ: 構造岩石学と造山帯のテクトニクス

・日本地質学会国際賞(1件)

Richard S. Fiske(スミソニアン協会・国立自然史博物館)

対象研究テーマ: 海底噴火における水中火砕流の運搬・堆積機構

・日本地質学会榭山雅則賞(1件)

平内 健一(静岡大学理学部地球科学科)

対象研究テーマ: 沈み込み帯と蛇紋岩のレオロジー

・日本地質学会 Island Arc 賞(1件)

授賞論文: Yui Kouketsu, Tomoyuki Mizukami, Hiroshi Mori, Shunsuke Endo, Mutsuki Aoya, Hidetoshi Hara, Daisuke Nakamura, Simon Wallis, 2014, A new approach to develop the Raman carbonaceous material geothermometer for low-grade metamorphism using peak width, Island Arc, 23, 33-50.

・日本地質学会 論文賞(1件)

授賞論文: Atsushi Nozaki, Ryuichi Majima, Koji Kameo, Saburo Sakai, Atsuro Kouda, Shungo Kawagata, Hideki Wada and Hiroshi Kitazato, 2014, Geology and age model of the Lower Pleistocene Nojima, Ofuna, and Koshiba Formations of the middle Kazusa Group, a forearc basin-fill sequence on the Miura Peninsula, the Pacific side of central Japan, Island Arc, 23, 157-179.

・日本地質学会小藤文次郎賞(1件)

佐藤 活志(京都大学大学院理学研究科)

対象論文: Katsushi Sato, 2016, A computerized method to estimate friction coefficient from orientation distribution of meso-scale faults. Journal of Structural Geology, 89, 44-53.

・日本地質学会研究奨励賞(1件)

三田村 圭祐(榊建設技術研究所)

対象論文: 三田村圭祐・奥平敬元・三田村宗樹, 2016, 生駒断層帯周辺における露頭規模

での脆性変形構造. 地質学雑誌, 122, 61-74.

・日本地質学会功労賞(1件)

大和田 朗(産業技術総合研究所地質調査総合センター)

功労業績: 地質試料の新薄片作製法の開発と人材育成

・日本地質学会表彰(1件)

「プラタモリ」制作チーム(日本放送協会)

表彰業績: 地質学の社会への普及

55) 熊本震災1周年を前にした学会会長声明「地質学の知見をもって減災につなげるために熊本地震から一年を迎えるにあたって」の発表を了承.

56) 学会行事や巡検等における, 自家用車やレンタカーの使用を制限する「巡検等に使用する車両制限について」を検討, 承認し, 会員に周知した.

57) 5月20日開催予定の総会議案の承認.

## 2016年度事業計画に照らした 本年度実績概要

### (1. 学術大会)

東京・桜上水学術大会は, 「出番ですぞ! 江戸前地質学: ジオハザード都市地質学」のテーマのもと, 首都圏における防災・減災に興味のある市民も多数参加し, 併催した地質情報展と共に成功裏に無事終了した. 今年は特に国際シンポジウムを積極的に支援したところ, 7件が実施され, 学術大会の国際化が進んだ.

### (2. 出版活動)

地質学雑誌およびIsland Arcの安定した出版と優れた論文の確保のため, 専門部会等と協力して, 投稿数増に努めた. 地質学雑誌はここ数年, 論文数減少の一途をたどっていたが, 著者プロフィール欄の新設など, 年来のプロモーション活動の効果が現れたのか, 昨年から投稿数が若干持ち直している. 併せて今年度は専門部会等から提案された125周年記念特集号の編集を開始した. また地質学雑誌のプレゼンス向上の一環としてトムソロイターの文献データベースESCIに登録申請した.

### (3. 地質災害対応)

以下の防災・減災に対する取り組みを積極的に進めた.

1) 地質学的観点からの調査・研究の推進: 西日本支部が山口大学等と行った熊本地震の緊急調査の成果を学術会議の熊本地震三ヶ月報告会で会員が報告した.

2) 災害に関する地質学的知識や情報の提供・発信: 防災学術連携体として8/27-28に行われた「防災推進国民大会」において一般向けの講演会「都市の地下を知って安全な社会を!」を行うと共に, 火山部会は「火山災害にどう備えるか」のワークショップで「地

質学が明らかにする火山噴火」として発表を行った. また, ホームページでは, 熊本地震の調査報告, 産総研の災害情報のサイトにリンクし, 普及を行った.

### (4. 普及活動)

1) 地学オリンピックへの支援を継続してきたところであり, 第10回 国際地学オリンピック・日本大会(2016年8月20日~27日)では日本代表が金メダル3, 銀メダル1を獲得して無事に終了した. 現在は来年フランス国際大会に向けた第9回日本地学オリンピックへの協力を進めるところである. また, 地震火山子どもサマースクールについても継続的に支援を行い, 第17回地震火山子どもサマースクールin南紀熊野(2016年8月20日・21日)では, 38名の小中高生の参加があり無事終了した.

2) 学会ホームページ(HP), ソーシャル・ネットワーク・サービス(SNS)「ちーとも」, 広報誌「ジオルジュ」, リーフレット, フォトコンテスト, 講演会などを通じ, 社会への情報発信を継続した. また, 「県の石」の普及に関しては, 支援委員会を設立して各種メディアを通じた宣伝を行うと同時に, 各県において公式に認定されるように関係機関に働きかけて来ている. なお, 「日本地質学会選 県の岩石・鉱物・化石」の刊行計画も本年度中に, 学会をあげて取り組む.

3) 地質情報展の開催: 産総研との共催による「地質情報展」は広く地方地質の普及に貢献できる事業として, 科研費を獲得して実施した.

4) 地質の日の事業における普及活動: 本部および各支部において普及事業を展開, また会員等の個別事業に対しても後援するなどした.

### (5. 社会貢献)

1) 2012年6月に改正された地質図の記号等に関する日本標準規格(JIS A0204), 及びベクトル数値地質図に関する日本標準規格(JIS A0205)の改正に対し, 宮下元会長が委員長として原案作成委員会に参画し, 現案の作成を行った. ならびにICSの国際層序単元の日本語版の更新, 層序単元登録の体制整備を計るとともに, 地質学雑誌で記載された層序単元の抽出作業をすすめた.

2) 東日本大震災5周年の声明(3/8), Geology of Japan(4/5), 県の石(5/10), 学術大会のプレスリリースを行った. とりわけ県の石はプレスリリース後にも数多くの取材があり, また, 県に活用して頂けるようアプローチを行ったので, そのプレスリリースも含めて地質学のプレゼンスの向上に大きく貢献した. メディア掲載率向上のためにいっそうの工夫を考えていく必要がある.

3) 地質技術者の継続教育の充実に向けて, 企業会員向けのシンポジウム・研修会等に関連学会と実施しCPD発行によりサービス強化を図っている. また, 学生に向けた地質企

業への就職支援として実施している「若手会員のための業界研究サポート」の継続と内容充実に、東京桜上水大会でも取り組んだ。

4) 地質調査研修の資格化として、フィールドマスター認定制度を産業および教育関係者と連携して制度設計を進めており、本年度中にモデル事業案を策定する予定である。

#### (6. 地学教育)

平成29年度大学入試センター試験(本試験)の地学関連科目の「地学基礎」「地学」問題を確認し、昨年度に較べて改善が進んだこと等を意見書として取り纏め、入試センターに送付するとともに公表した。

#### (7. 国際連携)

学術交流協定を締結している大韓地質学会、タイ地質学会、モンゴル地質学会、ロンドン地質学会、台湾地質学会との交流を継続している。ロンドン地質学会からは、日本地質学会が協力した「The Geology of Japan」が出版された。桜上水大会では、日韓台の研究者による国際シンポジウムを開催した。現在、ベトナム地質学会およびネパール地質学会との学術交流協定に向けた検討を進めている。

#### (8. 学会運営)

1) 学会の組織活動の強化を計り、大会や理事会時の支部間の連絡協議と、専門部会の活動の活発化のための専門部会連絡会議の再開を実施した。会員サービスの強化については、就職支援、地質技術者の継続的な専門教育(CPD)に連携した地域型講演会・ワークショップ等を検討している。

学会財政の見直しについては、経常予算事業の構成について、来年度事業予算から順次見直しをしていく予定である。支出体質の見直しにおいては、事業目的の達成度と効果の確認を行うようにしたい。

学会事務局体制については、業務の洗い出しと人員体制の見直しを始め、継続的な事務局業務が継続可能な合理化を、アウトソーシングや新規雇用を含めて検討している。

2) 新規の入会促進、入会者の定着、シニア会員の引き留め策等について引きつづき検討中のところ、会費収入の減少の下での事業収入の確保が喫緊の課題である。事業支出の面では、年会の収支が比較的健全な状況であることから、出版事業についての財務戦略を重点的に検討したい。

#### (9. 創立125周年記念事業)

2年後の本学会設立125周年に向け、記念事業の実施計画を具体化させ、地質学雑誌特集号を始めとする前年度事業の準備も本格的に進めてきた。

## 2017年度事業計画骨子

### 1. 学術大会

・学会としての学術大会の位置付けと用途を再確認し、学会員に加えた社会へのプレゼンス向上の場として生産的になるような支援策を試行する。

### 2. 出版活動

・地質学雑誌、ジオルジュに関する学会活動での位置付けと出版形態の再検討結果をとりまとめ、それらを踏まえて中期的な出版計画の再構築を行う。  
・安定した出版実績を計画的に進める。

### 3. 地質災害対応

・研究機関と連携した災害箇所の地質基礎情報の提供を行う「地質災害ポータル」の運用を開始する。  
・支部・専門部会と連携した防災リテラシー向上を目指す市民事業の企画と展開を行う。

### 4. 普及活動

・地質学の最先端学会として社会認知をさらに進める方策について専門部会と議論する。  
・地学オリンピック、地震火山こどもサマースクールなどの活動の支援を継続して行う。  
・地質情報展、地質の日事業を、本部及び関東支部、他各支部等で実施する。

### 5. 社会貢献

・JIS委員会や地層名データベース等の地質学の標準・基準設定を推進する。  
・企業会員へのCPD事業のショウケース化と学生会員への就職支援プログラムの試行を行う。  
・野外調査・教育の研修制度の事業化の一環として、モデル事業を立ち上げる。  
・各地のジオパークの活動を支援する。

### 6. 地学教育

・教科書・入試等を見据えた次世代若年層への地学教育の充実と質の確保への提言を引きつづき発信する。  
・教育用教材の企画を継続的に検討し、Web素材について試作する。

### 7. 国際連携

・韓国IGC2024へ向けて韓国地質学会と設定した窓口と協議ラインで、準備を進めていく。日韓の学術交流の活性化とレベルの向上に向けての取り組みを積極的に展開する。  
・東・東南アジアの協定先学会との連携を強化し、学術交流をより実効的にすることで、より多くの学問的成果が得られるようにする。

### 8. 学会運営

・学術活動の中期ビジョン策定に対応する、学会組織・財務の中期計画を、本年度に実施する会員減少モデルに基づく財務体質強化案に基づいて策定し、実施に移す。  
・本年度開始している会員サービスに向けた会員階層・地域ごとのニーズ把握と事業展開計画の検討を踏まえ、学会を支える会員のロイヤルティーの一助になるような支部活動や学会事業のモデルケースを実施する。入会者に対しては、さまざまな参加行事の広報やログイン内コンテンツの充実により、学術発表以外のメリットを増やしていく。  
・これらの中期的財務形態の改善のもとでの、独立採算事業の計画立案を試行する。

### 9. 創立125周年記念事業

・創立125周年の前年度にあたり、十分な広報活動と募金活動を推進する。  
・記念普及出版物の編集出版(出版社より)、地質学雑誌の記念特集号の開始、会員証の記念発行等を実施する。